

伝統的日本人家屋と文化に見られる精神性の 高いメタファーとしての柱

ジャック・リバーバー

日本の伝統的の家屋のもつ要素には精神性の高いメタファーが備わっている。この論文は、様々な日本文化シーンでの神聖なる象徴としての柱、又は特定の柱のもつ歴史的に特別なシンボルとしての意味合い等について、推論を交えて考察するものである。まず、「越えることのできないロートの聖木」に代表されるように日本においても木及び柱が天と地とを繋ぐシンボルと見なされていることについての考察からはじめ、日本の建築物における精神性へと展開する。このことに関連して、日本で建築の着工に先立ち行なわれる地鎮祭、構造部材の組み立ての最後の作業となる棟木を上げる時に行なわれる上棟式という神聖な儀式にも触れている。

日本の伝統文化と道徳(和合を求めて)

角井宏

21世紀を迎え、世界は平和を求めて真剣に悩んでいます。1次大戦の戦死者は軍人9割、2次大戦では市民が9割という数字から見ても、市民の一人一人が平和の確立を考えなければ、安心できない状態に置かれている今日この頃です。いかにして平和の確立は可能か。

国家間の戦争は通常国と国との利害の対立が原因といわれていますが、現実には起こった戦争は国家間の利害対立の前に国民相互間の民族・宗教・文化的不信に立脚していることが多いことはすでに経験済みです。従って宗教の一体性、民族の一体性、世界の一体性を信ずることができれば良いのですが、それには多様な伝統文化に潜む人類の一体性を確認し合うことが大切です。その手がかりとして、ABS日本は今年の年次大会で「日本の伝統文化と道徳」を取り上げました。

そのため、日本固有の宗教である神道及びこれと融合する形で発展した日本仏教、武士道、その影響下に発達した、書・音楽・演劇・舞踊・建築等々の各分野について、会員及び参加者各位から日ごろの研究成果をご披露頂きました。これらの多彩な伝統文化は、いずれも日本固有のものであって、外国文化とは隔絶した特異なものが少なくありませんが、一歩突っ込んで見ますと、外国文化の強い影響を受けているものや、輸入文化をわが国の伝統に合うように変形改造したりしています。しかし、故意に日本の独自性を主張しているものよりは、日本人の歴史や風土習慣に合うようにしているものが多いので、その由来を解き明かすことで、形の上では正反対でも、人類の一体性を確信できることになると思います。

例えば、伝統演劇の能は、外国演劇のように写実より、抽象化・様式化を尊重します。これはあの世との交信を主題とする夢幻能の場合、ありのままの、感情を露出するより、仕草を様式化することによって、俳優の内奥を観客に憶測させる方が効果的だからだと思います。こういう反対現象は、劇の場合だけでなく、日常生活でも秘するより露わるるはなしといって、感情を意識的に隠すことがあります。決して無感情ではなくて、悲しみを露わにする人以上に激しく悲しく見えます。そこを見抜けないと、薄情で共生不可能な人間と見違えてしまいうわけです。